

「棟梁の卵」牧野瀧社改修



作業には、大工棟梁を受講している20〜40代の中堅大工8人が当

県建設労組
「伝統大工」

実習で拝殿手掛ける

改修工事が進む塩尻市宗賀牧野の牧野瀧社で6日、拝殿を担当していた県建設労働組合連合会による信州職人学校・伝統大工コースの作業が終了した。7月から、訓練カリキュラムの二環で屋根の架け替えや収納部の改修などを手掛け、伝統木構法に基づいて往時の姿を保たせた。隣接する神殿でも業者による改修が大詰めを迎えており、全ての作業が今月末で完了する。(宮沢 一)

三浦保男さんが手ほどきし、毎週土曜日に作業を進めてきた。改修では、床を水平にする「不陸直し」をしたり棟木を取り替えたり、破風板を取り付けたりした。作業をしながらでないと思えない傷みもあり、状況に応じて対応した。三浦さんは「新築では経験できないことを経験で

きた。将来何かの役に立つ」と施工実習の意義を話していた。

瀧社は建造から120年ほどたつて老朽化が進み、雨漏りや柱の腐りなど傷みの激しい状態にあった。氏子総代が昨年、実行委員会を発足させて改修事業に着手し、氏子を中心に寄付を募って事業費約500万円を確保した。6月と7月には氏子約120人が集まって2度の周辺整備を行い、参道を広げたり駐車スペースを造ったりと力を合わせた。

12月9日に竣工神事を予定する。氏子総代表で実行委員長の成田昭広さんは「これから先何十年と持つだろう。神様にも落ち着いてもらえる」と作業完了を喜んでいた。

最終作業に励む職人学校の受講生ら